

E-10 老人の勤労観 (第2報) —埼玉県八潮市の場合—

知洋女大文家政 ○酒井ノブ子
金蘭短大 藤原 冬

目的 第1報と同じであるが、本報では地域的に前報と比較するため、首都周辺に住む老人男女に視点をあて、その勤労観の特徴を探ろうとするものである。

方法 調査時期は55年2月～3月で、対象は前回の中年男女の調査地と同じ埼玉県八潮市に在住し、同市老人福祉センターを利用中の老人男女とし、質問事項に自筆回答または調査者の聞き取りによって調査を行った。質問内容は前報と同様で、回収率100%、男子93人、女子147人を得た。

結果 男女別では男子は趣味に、女子は人とのつきあいに生き甲斐を感じている人が多いが、その他勤労意欲、余暇の解釈と活用、および一般の人びとの余暇の過ごし方に対する評価の一部に見方の差が出ていた。また年令別では、くらし向きにフリーで70代が稍苦しく感じており、勤労意欲は60代がより強いという違いがみられた。又昨年調査した中年と比較してみると、女項目以外は全部有意差がみられた。すなわち老人は、くらし向きに少しゆとりを感じており、生き甲斐は子や孫の成長よりも趣味や人とのつき合いが多く、生活はのんびり暮すべきとし、勤労意欲は稍減退してあり、仕事をすることは人として当然とする向きが多い。仕事の選択では、自分の能力發揮や世間の評価を大切に考えており、勤勉は美德で、働けば報われるとみており、余暇の本来的の意味は人とのつき合いを深める時間とみ、余暇の過ごし方に対する世間の評価を中年ほど否定してはいないなどの違いがみられた。なお前報の結果と比較してみると、2項目の他はすべてに有意差がみられたが、これは両地区の対象の属性、特に学歴差が自立つので、地域差にフリーでは今後の問題としたり。